

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600085		
法人名	社会福祉法人 ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18		
自己評価作成日	平成25年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年2月27日	外部評価確定日	平成25年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の尊厳を念頭に置き、思いや願いを大切にされた支援を心がけており、スタッフは認知症についての知識を深めるために、認知症実践者リーダー研修や新人研修、そのほか様々な研修や勉強会に積極的に参加し、研修報告の場を設け学んだことをスタッフで共有し、認知症ケアの向上に常に取り組んでいます。恵まれた環境の中で、母体の美彩の森まで散歩に出かけたり、庭先や畑に実る杏やブルーベリー、季節の野菜の収穫を行ったり、庭先の桜が咲くころには、桜の下でお弁当やお茶をいただき春を満喫されています。また、共同空間やウッドデッキからは、鴨が泳ぐ広い池や、四季折々変化する鬼の鼻山が見え、ウッドデッキに出て体操や散歩をしたり、ベンチに座りお茶を飲みながらお話をしたりして、皆様、自然に親しみゆったりとしたひと時を過ごされています。誕生日には、本人様に希望を聞いて、くるくる寿司まで食事に出かけたり、自宅でご主人とケーキを召し上がり久々に2人で過ごされたり、それぞれの過ごし方をされており、本人様の要望に沿った誕生日が過ごせるように支援をしています。季節ごとの行事を大切にしており、その中にスタッフによる寸劇を取り入れたり、桜や紫陽花、紅葉を見に出かけたり、ご近所の方たちをお招きして月見会を行うなど、季節を感じながら、楽しく過ごして頂くよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームの周りには大きな池があり、鴨もゆったり行きかい、併設する特別養護老人ホームの裏には法人所有の広い敷地があり「美彩の森」に四季折々の花々があり、鑑賞はもちろんのこと果実の収穫を楽しむことも出来、季節の移ろいを肌で感じることができる。理念の「自分らしくほがらかに」を日々実践し、利用者がその人らしく日常の生活を送っていただけるよう、研修にも積極的に参加、施設内での勉強会を行いスタッフ・事業所が一丸となって取り組まれている。利用者言葉かけを行っている職員の笑顔が素敵であり、利用者や職員の為の環境づくりがなされている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす)	自己評価／ユニットB(ひばり)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしくほがらかに」の理念を、管理者、職員で共有し、ケアを提供する際の道標と捉え、実践を目指しチームで目標を持って日々のケアに当たっている。入居者の権利や尊厳が損なわれることなく、自分らしくほがらかに、過ごしていただくことを念頭に、毎日の朝礼で唱和を行っている。	「自分らしくほがらかに」の理念を、管理者、職員で共有し、ケアを提供する際の道標と捉え、実践を目指しチームで目標を持って日々のケアに当たっている。入居者の権利や尊厳が損なわれることなく、自分らしくほがらかに、過ごしていただくことを念頭に、毎日の朝礼で唱和を行っている。	開設時に職員一同で考えた理念を現在も共有し、毎朝申し送り時に唱和し再確認を行い、日々明るく・朗らかに実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例のお月見会や納涼祭に、地域の方の参加をよびかけ、楽しい交流ができています。入居者が慣れ親しんだ地域へドライブに出掛けたり、地元の敬老会に参加するなど、なじみの方たちとの交流の場も設けている。また市が開催するトロッコレース等に出かけ、地域との共生を大切に支援している。	毎年恒例のお月見会や納涼祭に、地域の方の参加をよびかけ、楽しい交流ができています。入居者が慣れ親しんだ地域へドライブに出掛けたり、地元の敬老会に参加するなど、なじみの方たちとの交流の場も設けている。また市が開催するトロッコレース等に出かけ、地域との共生を大切に支援している。	地域の一員であることを自覚して、地域の行事等に参加し、友人や知人との交流を支援している。また、事業所での催しものには家族や地域の方の参加もあり、交流出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会や地域の方々に、認知症サポーター講座を開催したり、認知症についての理解を深めていただくよう取り組んでいる。また、運営推進会議にて、認知症についての啓発を行っている。	老人会や地域の方々に、認知症サポーター講座を開催したり、認知症についての理解を深めていただくよう取り組んでいる。また、運営推進会議にて、認知症についての啓発を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況や行事関係、職員が参加した研修や2ヶ月間の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や助言、市の新たな取組や地元の情報等活発な話し合いがされている。そこでの意見や助言はサービスの向上に活かしている。	運営推進会議では、入居者の状況や行事関係、職員が参加した研修や2ヶ月間の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や助言、市の新たな取組や地元の情報等活発な話し合いがされている。そこでの意見や助言はサービスの向上に活かしている。	2か月に1回の開催で、地区の区長、家族代表、地域包括支援センターの職員、施設のスタッフ等の参加があり、施設の行事予定・結果報告など行われ、活発な意見交換も出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度を必要とする入居者の状況は、常に市担当者に連絡を行い、連携をとりながら生活に支障が出ないようにしている。また、分からないことや問題が出た時は、市役所などへ相談したり、出向いて協力関係を築いている。	公的制度を必要とする入居者の状況は、常に市担当者に連絡を行い、連携をとりながら生活に支障が出ないようにしている。また、分からないことや問題が出た時は、市役所などへ相談したり、出向いて協力関係を築いている。	市の地域包括支援センターの担当者の定期的な訪問があり、又、ホームの担当者も市役所へ出向き、情報の交換・相談等を行える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者や職員は、法人の勉強会や、研修で、身体拘束によるリスクについて理解している。また当ホーム独自の高齢者疑似体験を通じ相手の立場にたった視点に基づくケアにつなげている。	代表者や職員は、法人の勉強会や、研修で、身体拘束によるリスクについて理解している。また当ホーム独自の高齢者疑似体験を通じ相手の立場にたった視点に基づくケアにつなげている。	玄関にはセンサーが設置されており日中の出入りは確認できる。天気が良い日は玄関も解放されている。事業所のそばには池があり、車の通行もあるため施錠をし、利用者の安全に努める場合もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、法人勉強会や研修において、入居者の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について、学び話合う機会を設けている。必要なときは、家族と話し合いを持ち、理解を求めたり、職員は、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は、法人勉強会や研修において、入居者の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について、学び話合う機会を設けている。必要なときは、家族と話し合いを持ち、理解を求めたり、職員は、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす)	自己評価／ユニットB(ひばり)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修等で学んでおり、必要学んだ事は、皆で共有し、必要性がある時は本人と関係者で十分話し合い成年後見人制度や安心サポートの利用などを支援している。	管理者や職員は「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修等で学んでおり、必要学んだ事は、皆で共有し、必要性がある時は本人と関係者で十分話し合い成年後見人制度や安心サポートの利用などを支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	通所や短期を利用して頂き、馴染みの関係が構築されることで、不安なくスムーズに入居につなげている。契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても十分な説明に努め理解と納得を得たうえでやっている。解約は本人や家族が困らないよう今後のことを十分に話し合い納得を得ている。	通所や短期を利用して頂き、馴染みの関係が構築されることで、不安なくスムーズな入居につなげている。契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても十分な説明に努め理解と納得を得たうえでやっている。解約は本人や家族が困らないよう今後のことを十分に話し合い納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは、普段の会話の中から意見や要望を聞く機会が多く、できるだけ実現できるよう努めている。家族には面談時や、サービス担当者会議の時に意見や要望を聞いたり、年に1回アンケートを実施している。また、第三者窓口について説明しホーム内に掲示し、苦情受付箱を設置している。	入居者からは、普段の会話の中から意見や要望を聞く機会が多く、できるだけ実現できるよう努めている。家族には面談時や、サービス担当者会議の時に意見や要望を聞いたり、年に1回アンケートを実施している。また、第三者窓口について説明しホーム内に掲示し、苦情受付箱を設置している。	家族の面談時など、できるだけ会話を多く持ち、会話の中から家族の要望・意見を聞き運営に反映させることができるよう努めている。玄関には苦情受付箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議で、職員から意見や提案があっており、代表者や管理者は、その内容を検討して可能な限りできるだけ意見や提案を運営に反映させるようにしている。	毎月のグループホーム会議で、職員から意見や提案があっており、代表者や管理者は、その内容を検討して可能な限りできるだけ意見や提案を運営に反映させるようにしている。	日常の業務の中での気づきなどは、その都度代表者や管理者へ提案、毎月の会議の場で検討し運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価を職員全員に提出させており、個人面談も行っている。それに主任や管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に活かしている。	年2回自己評価を職員全員に提出させており、個人面談も行っている。それに主任や管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善活にかしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症リーダー研修に参加し、職員一人ひとりの、力量を把握し、レベルに合わせた勉強会を開催する等、ケアの実践につなげている。また老社協やグループホーム協会の勉強会や発表会に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。	認知症リーダー研修に参加し、職員一人ひとりの、能力や力量を把握し、レベルに合わせた勉強会を開催し、ケアの実践につなげている。また老社協やグループホーム協会の勉強会や発表会に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を外部研修会に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事には、声をかけ参加をしてもらい交流を深め、サービスの質の向上に努めている。	職員を外部研修会に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事には、声をかけ参加をもらい交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至る前に、必ず本人に会い、さりげない会話を通じて相互理解を深め信頼関係を構築し、情報収集に努めている。聴いたことは、全職員に伝え、情報を共有することで、安心して過ごしてもらうよう関係づくりに努めている。	利用に至る前に、必ず本人に会い、さりげない会話を通じて相互理解を深め、信頼関係を構築し、情報収集に努めている。聴いたことは、全職員に伝え、情報を共有することで、安心して過ごしてもらうよう関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は、ホーム見学の際や、入居申し込みの際に、困っていること、不安なこと、要望等に傾聴し、家族の抱える思いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用ができるよう信頼関係の構築に努めている。	職員は、ホーム見学の際や、入居申し込みの際に、困っていること、不安なこと、要望等に傾聴し、家族の抱える思いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用ができるよう信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設の情報を提供したり、紹介したりしている。	本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設の情報を提供したり、紹介したりしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意分野において、能力を発揮してもらい、長年培ってきた生活の知恵や手順等、助言してもらう事により、互いに助け合い生きがいを持って生活出来るよう、配慮している。	入居者の得意分野において、能力を発揮してもらい、長年培ってきた生活の知恵や手順等、助言してもらう事により、互いに助け合い生きがいを持って生活出来るよう、配慮している。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は、本人の希望により、誕生日の外食に同席したり、定期的に排泄用品や嗜好品を届けてもらう等、協力を仰ぎながら、家族との絆を大切に過ごせるよう、共に話し合い支援している。	家族には、本人の希望により、誕生日に外食に同席したり、定期的に排泄用品や嗜好品を届けてもらう等、協力を仰ぎながら、家族との絆を大切に過ごせるよう、共に話し合い支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、自宅付近へのドライブや墓参り、地域の敬老会や夏祭りに参加し、馴染みの方々と、久しぶりに会う機会を増やしている。また法事等に出席されるよう馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	本人が入居前より続けてこられたコース等への参加を継続し馴染みの関係や場所が途切れないよう支援している。また、地元の夏祭りや敬老会に参加し、再会の機会も設けている。	入居前と同じように日常生活の中で利用者の要望を取り入れ出来るだけ希望に添いながら馴染みの関係が途切れないよう努力されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやソファで気の合う方同士楽しげに会話されている事が多いが、入居者の性格・人間関係・気に行っておられる場所等を考慮し、レクレーションへの参加を促し、入居者同士が負担を感じる事無く関わりあえる雰囲気づくりの支援に努めている。	普段よりテーブルやソファで会話を楽しまれることは多いが、輪の中に入れない方には、スタッフが間に入ったり、数名を別の環境に誘い孤立がないように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、面会や様子伺いを行いこれまでの関係を大切にしている。また、必要に応じて本人や家族への、相談や支援を行っている。	利用が終了しても、面会や様子伺い、これまでの関係を大切にしている。また、必要に応じて本人・家族への、サポートの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中から、本人の希望や意向を引き出し、表情や会話の中でのつづがきにも、注意し把握に努めている。面会時には、家族に希望、意向を尋ねており、希望に沿ったサービスの提供を心掛けている。内容に応じては、家族にも協力をお願いしている。	入居者との関わりを大切にしながら、その方の思いや意向を聞かせて頂き、表情やしぐさ、行動などから発せられるサインも見逃さないよう把握に努めている。家族の面会の際に意向を伺い、困難な場合は、できるだけ本人本位になるよう、家族に協力を依頼している。	利用者には担当制で介護にあたり日々のケア時・会話時などの言葉や表情を注意し、観察を行い又家族の方の面会時など要望や希望等を聞き、利用者一人ひとりにあったサービスが提供できるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、本人や家族に会い、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方等を尋ね、フェースシートに記入し、全職員が把握できるようにしている。入居後も本人や家族との関わりの中で、常に情報収集に努め、本人の思いを大事にしている。また、申し送りノート等の活用により情報の共有に努めている。	利用前に、本人や家族にお会いし、これまでの生活歴や環境、馴染みの暮らし方やサービス利用の経過を尋ね、フェースシートに記入し、チームで共有できるようにしている。また、入居後も本人や家族とのコミュニケーションを通じて、常に情報収集に努め、本人の思いを大事にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケースに一日の過ごし方、心身状態等を記入し、職員が出動時に必ず目を通す事で現状把握に努めている。また、状態の変化があった時等は、その場での申し送りをしたりノートの活用で、より早く現状を把握することで、迅速な対応ができるよう努めている。	個別のケースに一日の過ごし方、心身状態や有する力等を記入し、職員は、出動時に必ず目を通し現状の把握に努めている。また、状態の変化があった時等は、申し送りノートや口頭でも報告し情報を共有しケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、介護スタッフの意見、主治医の照会内容を踏まえ、サービス担当者会議での様々な意見やアイデアを勘案し、介護計画を作成している。状態変化の場合は、随時、カンファレンスを行うことでより現状に即したサービスが提供出来るよう努めている。	本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、介護スタッフ、主治医の意見を踏まえ、サービス担当者会議を開催している。本人が、より良い生活を送って頂くための意見やアイデアを勘案し、介護計画を作成している。状態変化時は、随時個別のカンファレンスを行いケアの統一を図っている。	入居者・家族の意向・要望を担当者会議の中でより良いケアへの意見として話し合いながら介護計画を作成している。また、状態の変化があればその都度カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに日々の様子や変化、ケアプランに沿って実践した結果や気づきを記入し、施設介護経過に詳細を記入することで、職員が入居者の情報を共有し適宜話し合い、実践や介護計画の見直しに繋げている。	入居者の日々の様子やケアプランに基づく実践や気づきを個別ケース記録や申し送りノートに記入し、毎日出動時に目を通し、申し送りなども行いチーム間で、情報の共有に努めている。また、情報を踏まえて意見を出し合い、モニタリングを実施し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、本人を取り巻く環境で生まれる、その時々ニーズに応じて十分に話し合う機会を設け対応することで、柔軟な支援やサービスに努め取り組んでいる。	本人や家族の状況、本人を取り巻く環境で生まれる、その時々ニーズに応じて十分に話し合う機会を設け対応することで、柔軟な支援やサービスに努め取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの積極的な受け入れをしており、年末の大掃除や炊き出しをして下さっている。お月見会に地域住民の方をお誘いし、入居者と共に俳句を作成しお互いの力を発揮して楽しめるような環境作りを心がけている。	地域ボランティアの積極的な受け入れをしており、年末の大掃除や炊き出しをして下さっている。お月見会に地域住民の方をお誘いし、入居者と共に俳句を作成しお互いの力を発揮して楽しめるような環境作りを心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、本人や家族の希望を大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、受診が困難な場合は、往診を依頼したり、ホームより受診同行を行っている。医療機関との情報交換を行い適切な医療が受けられるよう支援している。	受診は、本人や家族の希望を大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、受診が困難な場合は、往診を依頼したり、受診に同行している。医療機関との情報交換を密に行い信頼を得ることで、適切な医療が受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医との関係を継続できるよう、受診は家族の方に対応していただくことを基本としているが、困難な場合には職員が同行し、又、往診を依頼し、適切な医療を受けることができるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、看護師に報告相談し、医師との連携を取りながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は、常に入居者の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、看護師に報告、相談し医師との連携を取りながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、サマリーに記入し情報の提供を行っている。また早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問もしている。入居者が、安心して治療を受けられるように、日頃から病院関係者との関係作りに努めている。	入居者が入院した際は、入院に至るまでの経過を説明し、サマリーに記入し情報の提供を行っている。また早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問もしている。入居者が、安心して治療を受けられるように、日頃から病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応の指針や看取りにかかわる指針を説明している。重症となられた場合は、本人と家族の希望をできるかぎり尊重し、当ホームですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、医療との連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合における対応の指針や看取りにかかわる指針を説明している。重症となられた場合は、本人と家族の希望をできるかぎり尊重し、当ホームですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、医療との連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合の対応や看取りにかかわる指針について説明を行っている。状態に変化があった場合は、併設施設や医療機関と連携ができるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて、消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用法、急変時の対応について定期的に勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。	法人にて、消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用法、急変時の対応について定期的に勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間に避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団・婦人会に協力を仰ぎ、地域と一体になった避難訓練を実施している。また、法人の安全管理委員会に、職員が所属しており、防災知識向上への取り組みがなされている。	年2回、昼間と夜間に避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団、婦人会に協力をいただき、地域と一体になった避難訓練を実施している。また、法人の安全管理委員会に、職員が所属しており、防災知識向上への取り組みがなされている。	年2回日中と夜間に訓練を行っている。夜間に訓練を行うことにより日中ではわからなかった避難通路に電灯の必要性等がわかり設置した。スタッフの消火器の使用訓練・消防署への連絡体制の確認又、消防団や地域の方の協力体制も築いている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす)	自己評価／ユニットB(ひばり)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者様と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。開設当初より基本姿勢として継続している。	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者様と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。開設当初より基本姿勢として継続している。	職員は、入居者一人ひとりを人生の先輩として敬い、言葉かけや態度にも尊敬の念を持って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や思いの表出ができるよう、雰囲気づくりに努めている。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や思いの表出ができるよう、雰囲気づくりに努めている。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。また、散歩に出られたり、本を読まれたり、自分のペースで過ごされることを大切に、出来るだけ希望にそって支援している。	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。また、散歩に出られたり、本を読まれたり、自分のペースで過ごされることを大切に、出来るだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、行きつけの美容院に行かされている。愛用品のトリートメントや化粧品等がなくなった場合は、家族に依頼したり、買い物支援で購入される。また、クリスマスのプレゼントでファンデーションや口紅を差上げることで、おしゃれを楽しまれている。	本人の希望により、行きつけの美容院に行ったり、愛用品のトリートメントや化粧品がなくなった場合は、家族に連絡し、持ってきていただいている。また、クリスマスのプレゼントにファンデーションや口紅を差しあげることで、おしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の生活歴を大切に朝食に好みのパンやコーヒーを提供し、誕生日には希望により外食や好きなメニュー、行事には特別メニューを用意し、職員と共に食卓を囲む機会を設けている。また、台所仕事がお好きな方には、配下膳や食器洗浄等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。	その方の生活歴を大切に、朝食に好みのパンやコーヒーを提供したり、誕生日には、希望により外食やお好きなメニュー、行事に、特別なメニューを用意し、職員と共に食卓を囲む機会を設けている。また、台所仕事がお好きな方には、配下膳や食器洗浄等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。	ホームの傍にある畑で採れた野菜も時として食卓にのることもある。利用者もごはんをつぎ分けたり盛り付け配膳を行ったり、できることを手伝い、スタッフと一緒に食卓を囲み食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立に基づき、一人ひとりの状態や力に合わせた食事量や食事形態を工夫し提供している。水分の摂取を好まれない方は、ゼリーや本人の好みの物を提供し、水分量の確保に努めている。また、食事や水分量は、毎日記録に残し、健康状態の目安になっている。	管理栄養士の献立に基づき、一人ひとりの状態や力に合わせた食事量や食事形態を工夫し提供している。水分をあまり好まれない方は、ゼリーや本人の好みの水分を提供し、一日の水分量の確保に努めている。また、食事や水分量は、毎日記録に残し、健康状態の目安になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯や自歯のブラッシングを促し、磨き残しについては、職員が一部介助することや必要な時は歯科往診や受診で指導を受け、清潔保持ができています。夜間帯は、職員サイドで預かり義歯洗浄剤に浸け管理している。	毎食後、義歯や自歯のブラッシングをしてもらい、磨き残しや舌の汚れについては、スワブを使用したり、職員が一部介助することで、誤嚥性肺炎の予防や清潔保持ができています。夜間は、職員サイドで預かり義歯洗浄剤に浸け管理している。また、必要に応じて、訪問歯科を利用し、口腔の管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、排泄用品・用具の選定、さりげない言葉かけやパット確認を行い失敗の減少に努め、安心されるよう支援している。また、排泄動作に不安があられる方には、見守りや動作の手順をゆっくり説明し、一部介助を行うことで不安の軽減へ繋げている。	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努め、言葉かけや定時のトイレ誘導を行うことで、排泄の失敗の減少に努めている。また、排泄動作に不安があられる方には、見守りや、一部介助を行ったり、安心して排泄していただけるよう支援している。適宜、洗浄や清拭を行い清潔を保持している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、入居者の行動を見守りながらさりげなく支援している。また、言葉かけを行いながら排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつや食事にはホームの畑で採れたさつま芋等の野菜を提供し、水分の摂取量に気を付け、献立には食物繊維やヨーグルト等の食品を取り入れることで、便秘予防に努めている。また、散歩や軽運動を促しており慢性の便秘の方には、医師に相談の上、服薬のコントロールを行っている。	水分摂取を細めに行ったり、下剤に頼らずスムーズな排便ができるよう、毎朝ヨーグルト摂取してもらうなど、個々に合わせた支援を行っている。慢性の方には、処方薬にて対応し、便秘時には、主治医と連携を図り、薬の処方や、今後の対応などの指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手配で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	プライバシーに配慮し場合によっては同性で対応し、ゆっくりと入浴出来るよう個浴になっている。湯温や手順等個々の希望に合わせて、身体リスクのある方には、安全面を考慮し福祉用具を使用している。またお断りされる時には、無理強いせずコミュニケーションや別日で対応している。	入浴をゆっくり楽しめるよう個浴になっており、身体のリスクに応じて福祉用具を活用したり、2人介助を行い、安心して入浴できるよう支援している。また、羞恥心に配慮し同性介助も行っている。入浴を断られる方は、本人の意思を尊重し、日を改めて入って頂こううな支援を心がけている。	入居前の入浴パターンを参考に支援を行っている。入浴は個浴となっており、ゆっくりと楽しんでいただけるよう支援している。入浴を嫌がられる利用者には無理強いせず、曜日等を変更するなどして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や希望に応じて、居室や畳の間等で寛いだり、午睡をされている。就寝前は、居室でテレビを視聴したり、仲間同士居室で会話を楽しまれている。また、室温・湿度調整も随時行い、湯たんぽの活用や愛用品の寝具で眠られている。不眠時は、不安軽減の援助を行うことで安心されている。	個々の希望や体力、体調に応じて、居室やたたみの間、ソファでくつろがれたり、午睡を促し、適度な休息の時間を設けている。夜は、自室にホームの友人を招き会話しながら、お茶をされた後、休まれたり、テレビ視聴やラジオ、CDを聴きながら眠りにつかれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬状況や効能・副作用等を記載し、いつでも確認ができるようになっている。一人ひとりが服用されている薬について理解しており、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止のため、4回の確認を行い、服薬の際は、名前、日付を確認の上、服用してもらっている。	個別の服薬状況や効能、副作用等を記載し、いつでも確認ができるようになっている。一人ひとりが服用されている薬について理解しており、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止のため、4回の確認を行い、服薬の際は、名前、日付を声を出し確認の上、服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大正琴の演奏やマフラー制作・縫物等の楽しみ、洗濯物量みまたは食器洗浄等の家事全般、一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごしてもらうよう支援している。また、近所の散歩や買い物、公園へドライブに出掛けるなど外出支援も気分転換の為、積極的に行っている。	苑外サークルへ参加されたり、洗濯物たたみや食器洗浄等一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや楽しみのある毎日を過ごしてもらうよう支援している。また、近所や美彩の森を散歩したり、月ごとにイベント等も企画しており、楽しんで参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物は個々の希望に沿って行い、段差や坂道があり家族だけでは諦められていた妹様宅訪問を誕生日に実現する等の支援を行っている。また、法事や墓参りには家族と協力して出掛けられるよう支援している。	散歩やドライブを希望されたら一緒にでかけたり、移動バンや近所のスーパーにて、嗜好品を購入してもらうなど、できる限り要望にお応えできるよう努めている。また、入所前より行かれていたコーラスへの参加も、ご家族と連絡取り、ヘルパーと連携することで毎週参加できるように支援している。	法事、買い物、ドライブなど利用者一人ひとりの希望に沿った外出ができるよう心がけている。また、移動販売の買い物を楽しみにされていたり、地域の行事にも積極的に参加できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、自己管理出来る方は、お金を所持されており、苑外活動やパンの移動販売・スーパー等で、衣類や好きな物を購入されている。	家族と相談の上、自己管理できる方は、お金を所持されており、苑外活動や移動販売にて、好きな物を購入されている。また、地区の文化サークルに所属しており、毎週練習に行かれたり、美容室にカットや毛染めに行かれ、有効にお金を使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族に電話をかけた話して頂いている。また、毎月のホーム便りに色を塗ってもらったり、一言メッセージを書いてもらい家族に送っている。遠方におられる子供とはがきのやり取りもされている。	本人の希望により、友人や家族に電話をかけた話してもらっている。また、毎月のきたがたがた便りに色を塗ってもらったり、家族への一言メッセージを直筆にて書いてもらっている。年賀状や同窓会への出欠も出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各テーブルには季節の花や作品を置いたり、皆で作成した干支の貼り絵を掲示している。廊下の隅には観葉植物を置くなど、季節感や生活感を大事にした設えを心がけている。また、湿度・温度調節も細めに行い、人的環境にも気遣い居心地よく過ごせるよう支援している。	テーブルには、季節の花を生け、入居者が作成された干支の貼り絵・月見会の俳句や食事のメニューを掲示し、季節感や生活感を大事にした設えを心がけている。温度・湿度・照明等の調整を細めに行い、職員も環境であることを意識しケアに当たっている。	玄関周りのスロープには、植木鉢に季節の花が植えてある。広い窓から暖かな日差しが差し込み穏やかなゆったりとした流れを感じることができる。リビングの各テーブルにも、季節の花が活けて有り、季節を感じることができるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のベンチや談話コーナーのソファで独りで過ごしたり、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、昔話したり、ソファに座りながら、ゆっくりとした時間を過ごしておられる。また、畳みの間では座椅子に座り、テレビ鑑賞や食事をされたりと、ひとりで過ごす時間も大切にされるよう工夫している。	玄関やデッキのベンチや談話コーナーのソファで独りで過ごしたり、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、話をしたり、ソファに座りながら、各自ゆっくりと穏やかな時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、テレビや仏壇、ソファ等愛用の品物を持ってきて頂き、また愛ネコや家族の写真を飾る等し、不安なく安心して過ごしてもらえるような工夫をしている。本人希望により安全を考慮したうえで、模様替えを行ったり、仲間同士招き招かれ談笑し心地よく過ごされている。	本人や家族と相談し、テレビやラジカセ、仏壇、馴染みのソファや品物を持ってもらい、自分の家により近い環境で、安心して過ごしてもらえるような工夫をしている。自室に仲間を招きお茶やお菓子をたべながら、話や テレビをみたり、一人で本を読まれたりと居心地のよい場所となっている。	入居後も馴染みの品物、テレビ・仏壇などを居室に置き、また、家族の写真を飾ったりと少しでも自宅と同じように居心地良く過ごしていただけるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力を把握し、トイレや居室に迷われる方のためには、道標や表示を掲示し、不安や混乱の軽減に努めている。また、廊下やトイレ浴室等には、手すりをつけ安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。	ICFの視点を活かし、本人の残された能力を見極め、道標や標示を掲示し、環境に配慮することで、出来るだけ混乱がないように工夫している。また、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない